

第1章 東松島市都市計画マスタープラン改訂の考え方

1 これからの都市づくりに向けて挑戦する課題

震災復興等の都市づくりを取り巻く状況の変化を踏まえて、本都市計画マスタープラン改訂に当たっての主要課題及びその課題解決に向けて取り組むべき（挑戦すべき）内容を次のとおり整理します。

挑戦する課題① 震災復興及び少子高齢化による人口動向への対応

- 市全体の人口減少及び少子高齢化が進行し、また市街化区域内の人口が横ばいで推移している中、既成市街地の機能をより一層充実させることが必要です。
- 復興事業により生活再建が進み、一定の人口が回復したことから、今後は安全で安心な暮らしを一層充実させることが必要です。

挑戦する課題② 復興事業に伴い変化する土地利用及び都市基盤整備への対応

- 復興事業により三陸縦貫自動車道の四車線化やJR仙石線、矢本海浜緑地及び奥松島（運動）公園の移設復旧が完了するなど都市施設の整備が進行しており、これらの都市基盤施設を活かした都市づくりをさらに推進することが必要です。
- 復興事業により内陸部を中心に集団移転団地が整備され、都市発展軸上への市街地の集約化が進んだことから、市街地や集落をつなぐ都市全体のネットワークも含めた持続可能な都市構造の構築をさらに推進することが必要です。

挑戦する課題③ 震災に伴い変化する都市防災及び交通体系の変化への対応

- ハード整備・ソフト対策両面での復興が着実に進展しており、災害に強い都市構造の構築（都市防災としての対応）を継続して推進することが必要です。
- 市内及び地域間道路ネットワークの変遷が進んでおり、都市づくりに影響する交通体系（車の流れ）の変化に合致する都市計画道路網及び市内地域公共交通網の形成を検討することが必要です。

挑戦する課題④ 移転元地（津波防災区域内）の利活用への対応

- 移転元地における産業地整備、農地転換活用等が復興事業により進められており、これらの土地の利活用を今後の地域の活性化につなげていくことが必要です。
- 従来の地域資源や移転元地（津波防災区域内）を活用し、広域圏等の関係市町と連携した観光・交流を促進することにより、交流人口の呼び込み、地域活力の創出につなげていくことが必要です。

挑戦する課題⑤ 本市の行財政に相応した（身の丈にあった）都市づくりへの対応

- 今後、復興事業の終息に伴い市の行財政運営は厳しい状況に推移することが予想され、将来の財政規模（身の丈）に見合った都市づくりを実践することが必要です。
- 財政制約が厳しくなるとともに、市民ニーズが多様化する中、今後の都市づくりにおいては、計画の立案～事業実施～維持・管理の全般にわたり、行政としての評価・検証・改善の実践と市民の一層の協力・参画・評価を促すことが必要です。

2 基本的な考え方

上位計画である「東松島市第2次総合計画」や「東松島市国土利用計画（第2次）」、「東松島市人口ビジョン・第2期総合戦略」の考え方を踏まえるとともに、持続可能な開発目標となる「東松島市SDGs未来都市計画」を受けて、本都市計画マスタープラン改訂の基本的な考え方を次のとおりとします。

◎市民協働のまちづくりの理念に基づく安定・成熟を基調とした都市づくりの推進
（市街地の拡大・成長から再生・活性化への転換）

◎市勢発展に向けた新たな産業用地整備や市内各地域の振興・活性化のための地域拠点の整備等による持続可能な都市づくりの推進（復興まちづくりから持続可能なまちづくりへの展開）

3 都市づくりの方針

本都市計画マスタープラン改訂の基本的な考え方を踏まえて、主要課題に対応した都市づくりの方針を次のとおり設定します。

①住宅地の暮らしやすさの向上 (挑戦する課題①に対応)

- 既成市街地の暮らしやすさの向上とともに、集団移転団地等の新たな住宅地における地域コミュニティを充実させます。
- 市街地周辺部や市街化調整区域の農村集落等における、地域活力の充実と高齢者等の交通弱者対策として、地域公共交通ネットワークを充実させます。

②機能集約型都市構造の形成 (挑戦する課題②に対応)

- 復興事業により鉄道駅と居住地が近接した集約市街地が形成されつつあることから、避難道路等の都市基盤施設や集団移転団地等の新市街地を活かしなが、SDGs未来都市にふさわしい都市機能や市街地が集約された機能集約型都市構造を形成します。

③安全で安心な防災都市づくり (挑戦する課題③に対応)

- 万が一の災害（地震、津波等）に備えるため、多重防御施設の構築と地域防災計画や避難行動計画等のソフト事業とが連携した安全で安心して暮らせる都市づくりを推進します。

④都市構造の変化に対応した道路ネットワークの見直し (挑戦する課題③に対応)

- 復興事業による都市構造の変化と今後の持続あるまちづくりに対応した都市計画道路網の見直しや主要幹線道路の役割の明確化を図ります。

⑤津波防災区域の再生に資する移転元地の有効活用の推進 (挑戦する課題④に対応)

- 津波防災区域の再生に資する、復興事業等による産業地整備や農地利用、自然環境・景観の再生・保全事業等の移転元地の有効活用を推進します。

⑥地域資源を活かした観光・交流の促進 （挑戦する課題④に対応）

- 特別名勝松島区域の自然景観の保護を図るとともに、有効な資源として活かせるよう観光・交流機能の強化を図り、観光客等の交流人口の増加に資する都市基盤施設等を充実させます。

⑦市民協働による都市運営の推進 （挑戦する課題⑤に対応）

- 震災や人口減少等により一層厳しさを増す行財政見通しを踏まえ、施設の整備、管理・運営等に対する行財政改革や市民参画等への更なる取組、市民協働による都市運営の展開を図ります。

▼宮城オルレ「奥松島コース」



▲市民による植栽活動